

13 白山神社の鎮守の森

1 境内樹

神社は鎮守の杜(森)とも呼ばれるように自然の中に神々を祭った伝統を伝えています。

500年以上前から神域として守り続けられている白山神社の鎮守の森は生い茂った木々の呼吸のおかげで清浄な空気が感じられます。

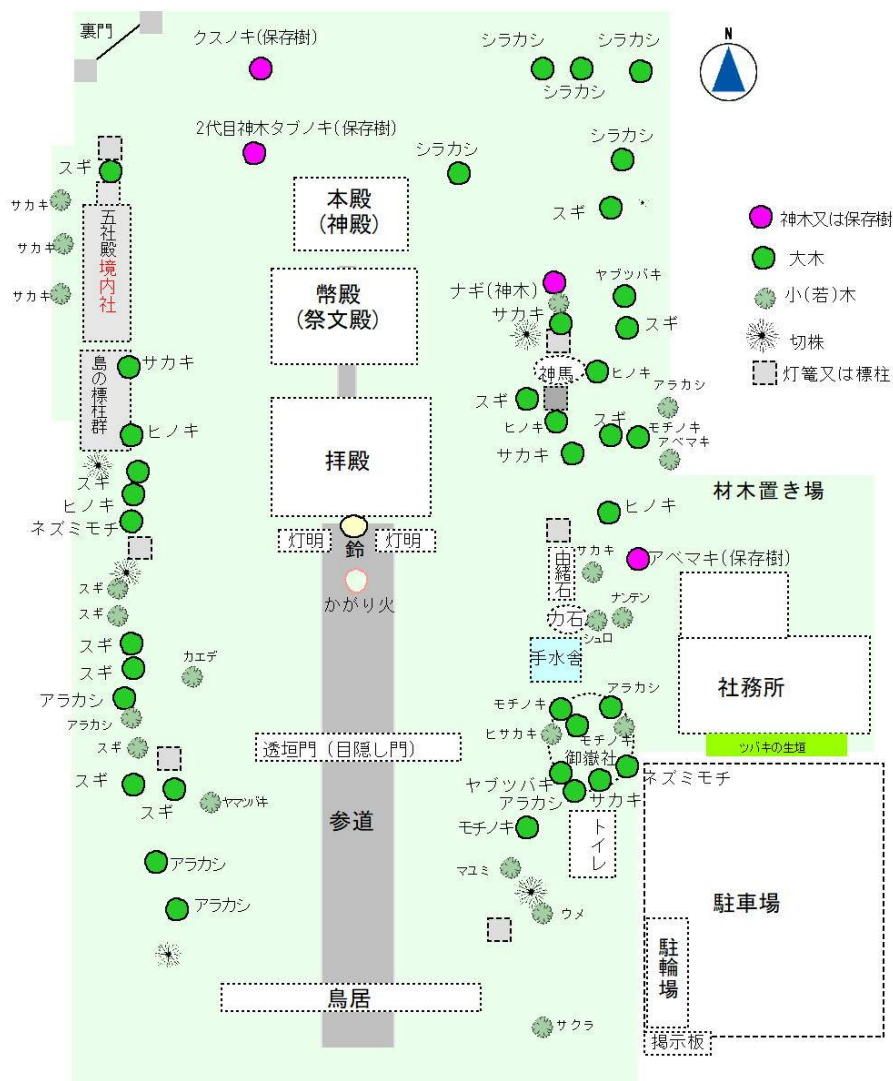
境内にある木々は神が宿る木とされ大切に扱われてきました。特に樹齢を重ねた木々や、神社にゆかりの木などが神聖視され、神の依代(神木)とされてきました。

境内には、白山神社建立500年以来そこに存在していた木々もあったと思われませんが、伊勢湾台風時(昭和34年9月26日)に多くの大木が倒れてしまいました。

その後、氏子などの献木により苗木が植えられ鎮守の森が復活しましたが、平成10年の7号台風(9月26日)でも多くの倒木がありました。

また、区画整理で境界が整備された時(平成22年)にも多くの木が伐採されました。

かつての様な樹木で覆われた神社の面影は薄れましたが、^{いにしえ}古から氏子の人達が大切に育ててきた鎮守の森について調べてみることにしました。



令和5年10月現在

2 神木(神社にゆかりのある木)

境内には、白山神社建立「明応3年(1494)以前」以来そこに存在していたと思われる木々もあったとおもわれますが、伊勢湾台風時に多くの大木が倒れました。

その後、そこには氏子等の献木により「スギ」「ヒノキ」「サカキ」の苗木が植えられ、今、白山神社の鎮守の森を形成しています。

鎮守の森の中でも樹齢を重ねた木や、白山神社にゆかりのある木を神木とされ、紙垂しでを付けた縄(注連縄)で巻かれています。



初代神木「オオバヤナギ」
伊勢湾台風後から平成10年の
台風7号で倒木するまでの姿

① オオバヤナギ

初代の神木といわれた「オオバヤナギ」の古木は、参道の右側にあり市内でも1本のみという珍しい古木でした。

昔は白山神社の南辺りまで庄内川の流路があり、その川岸か河川敷であった頃から自生していた木ではないかと言われていました。

白蛇が住みついているとされ、樹高は8.5m程でしたが、立ち上がった主幹は本殿の方へ水平に湾曲し再び上へ伸びていました。

伊勢湾台風の後遺症で主幹が2つに裂け、平成10年9月の台風7号で倒れましたが、その老体を横たえながらも、幹の根元からの枝が辛うじて頑張っていました。ついに平成24年頃に枯れてしまいました。



初代神木 平成18年頃



平成21年頃



平成24年 ついに枯れてしまった。

平成10年の台風7号で倒木したが幹の根元からの枝が辛うじて頑張っていました。

② タブノキ

2代目の神木の「タブノキ」の巨木(幹周 310 cm)は市内でも数少ない巨木で貴重な樹木です。

樹齢300年以上経っていると思われ、本殿の左裏の叢林に緑の樹冠を盛り上げています。

照葉樹林の代表的樹種のひとつで、古くから樹霊信仰の対象とされ、各地でも「鎮守の森」によく大木として育っています。

白山神社の神木として神社を守り続けてきた生き証人として大切な役割を果たしてきたといえます。

根元には根も葉も無い「茎だけの原始的なシダ植物」「マツバラン(松葉蘭)」が生息しています。



2代目神木「タブノキ」

黄色いつぶつぶは胞子の袋です。大昔、シーラカンスが誕生した時代、水中から陸上に上がった頃の原始的植物の体のつくりを現代までそのまま残している「生きた化石」で、絶滅危惧種に指定されています。



マツバラ(松葉蘭)

③ ナギ

祭殿の東には「ナギ」の木があり、まだ若木ですが樹齢40年以上、樹高15m程に成長しています。

竹の様に平行脈で厚く強靱な葉をもつ常緑針葉樹で、樹形はすらっとしており、これが針葉樹とは思いつきません。

手で無理やりちぎろうとしても切れないことから、誰からも傷つけられない縁起のよい木として災難除けにされました。

熊野地方の多くの神社で神木とされ、熊野速玉大社（和歌山県）の御神木は樹齢千年以上とのことです。

昔、多くの神社ではこの実から採った油を石灯籠の灯りに使ったといいますが、

この木は神社にゆかりのある木「縁起の良い樹木」（古来から縁結びや災難除けの木として信仰の対象となっていた）で、白山神社の主祭神「菊理姫命」の御神徳と重なる神木(令和3年7月指定)として、大切にしていきたいと思えます。



令和3年7月神木指定された ナギの木

3 境内樹木の様子

① 鳥居から透垣門にかけて

鳥居をくぐると、透垣門にかけて左側は常緑高木の「カシ類」が生えています。

右側には「サクラ」、「ウメ」、「マユミ」など、先代総代が記念に植えた落葉広葉樹があり、その中に1代目の神木「オオバヤナギ」の切り株があります。

神木「オオバヤナギ」は伊勢湾台風でダメージを受け老体を横たえていましたが、平成24年代頃に枯れてしまいました。

その奥の御嶽社の小山には、神社ゆかりの「サカキ」も石碑の近くに2本あるなど常緑小高木が密に植えられています。

② 社務所の辺り

社務所の南側は、石組みに「ツバキ」の生垣となっています。

社務所の隣の倉庫前には、市保存樹である巨木「アベマキ」が倉庫の屋根に覆いかぶさって、空に大枝を広げています。

境内で最も大きな木の一つで定期的に枝の剪定を行っていましたが、秋の落葉の掃除には泣かされる木でもありました。

木の根元には大きな空洞がみられ、倒木の危険があることから令和5年1月末に幹の切り下げを行いました。



空に大枝を広げていました「アベマキ」幹の伐採する前

③ 透垣門から本殿にかけて

透垣門から本殿にかけては、「スギ」、「ヒノキ」、「サカキ」が東西の境界沿いに植えられています。

ここは鬱蒼とした木々で覆われていましたが、伊勢湾台風(昭和34年)によってなぎ倒された後に植樹されたものです。

拝殿の西側の境界に古い切り株が2つ残っていますが伊勢湾台風で被害に遭ったものです。

平成22年の区画整理で境内の配置が見直され整備される前までは、沢山の切り株がみられ一番大きな切り株は周囲190cmあって、台風前の社鬱の木々の繁茂を偲ばせていました。

この辺りは、台風被害復興工事として、氏子等で「スギ」、「ヒノキ」、「サカキ」の献木を募り、苗木が植えられました。

祭文殿東にある「ナギ」はあまり見慣れない木です。

竹の様に平行脈で厚く強靱な葉をもつ常緑針葉樹で、樹形はすらっとしています。

「縁起の良い樹木」(古来から縁結びや災難除けの木として信仰の対象となっていた)として令和3年7月から白山神社の神木とされました。

④ 本殿周りから裏側にかけて

本殿周りから裏側にかけて常緑広葉の高木がそびえています。

かつては、本殿の東側から裏にかけては、小規模ではありますが、自然林に近い照葉樹林として「鎮守の森」を形づくっており、「シラカシ」などの常緑広葉樹や、植栽された「ヒノキ・スギ」などで形成されており、秋になると地面は一面の落ち葉とドングリで敷きつめられました。

本殿の北西の裏門近くには市保存樹の「タブノキ」、「クスノキ」の大木があります。

「タブノキ」は、市内でも珍しく貴重な樹木で、二代目の神木とし神社、本殿の守護神にふさわしい堂々とした常緑の巨木ですが、幹に大きな空洞がみられるなど生育が危惧されています。

このような樹木の生育の基盤である境内の地面をみると、小石で河原のような場所が多くみられることから、庄内川の氾濫で神社境内にも水が押し寄せたことが想像されます。

この一角の巨木群は、江戸時代のムラ絵図にもある「白山宮」時代から幾度かの暴風や水害に耐え、神社とともに何百年も生き続けた生き証人でもあります。

最近、かつての鬱蒼とした鎮守の森の木々が少なくなっているのが寂しく感じられます。

過去の「4、台風被害」の様子や、「5、25年前の木々」との比較を通して「6、境内樹木の維持管理」についてみてみます。

4 台風被害

白山神社は、まさに鎮守の森に相応しく、多くの木々で囲まれた神社でした。

本殿の東側から裏にかけての叢林は、小規模ではあるが、自然林に近い照葉樹林となっていました。

しかし、度重なる台風などにより、樹勢が弱っていた老木、古木などが倒木しています。

(1) 伊勢湾台風(昭和 34 年 9 月 26 日)の被害

9月26日18時過ぎ、929 mbの勢力を持って潮岬の西15キロ付近に上陸した伊勢湾台風で、松河戸では数件の家屋が倒壊しました。

神社でも、社殿の被害は少なかったものの、鎮守の森の木々がなぎ倒されました。

社殿に倒れ掛かる大木もありましたが、なんとか社殿への被害は免れました。

創建以来存在していと思われる大木の多くが倒れ、うっそうと茂っていた鎮守の森が寂しくなりました。

そこで、翌年「台風被害復興工事」として寄付を募り、氏子等の献木により「スギ」、「ヒノキ」、「サカキ」の苗木が植えられました。

それらの木は今65年経ち、鎮守の森を潤してくれています。



不浄除の左側辺り



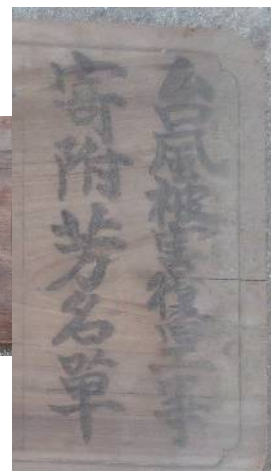
不浄除の右側辺り



神馬の周辺

多くの大木が倒れ、氏子総出で神社の復興にあたりました。

台風被害復興工事 寄附芳名 昭和 35 年 10 月



伊勢湾台風被害復興寄附芳名簿板 昭和 35 年 10 月

台風被害復興工事のため、企業や住民からの多くの寄付がありました。また、木々が多く倒木したことから、多くの献木がありました。ヒノキ、スギ、サカキ別に献木名簿が書かれています。

5 25年前の白山神社の木々

(平成10年3月)

(1) 25年前の木々との比較

岡島博氏(総代)の『記録 松河戸「白山神社」その現在・過去・未来』という記録誌が残されています。

それには、平成10年3月当時の白山神社境内の樹木の立木が記録されています。

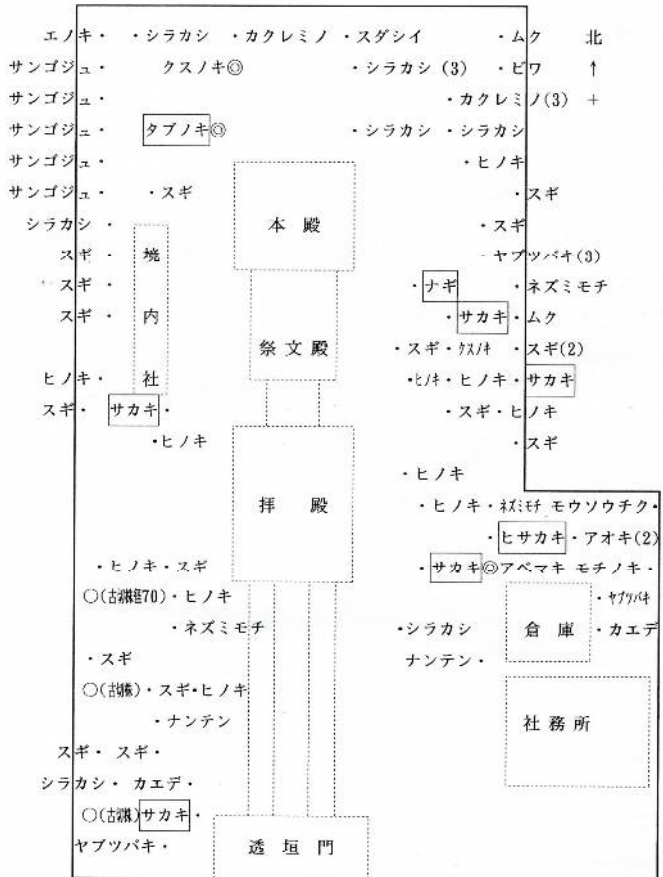
それによると、平成10年3月現在の幹立ち、株立ちの独立木は合計で150本確認されています。

境内の多い木(幹立つ)ベスト5として、スギが27本、カシ類23本、ヒノキ12本、ヤブツバキ7本、サカキ5本、モチノキ5本などです。

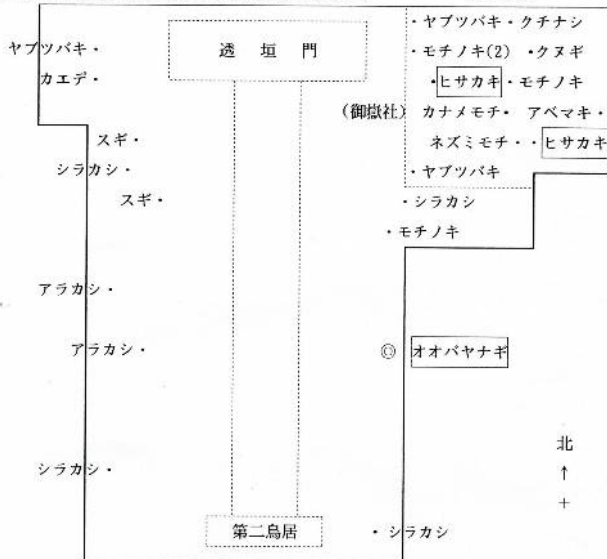
現在の幹立ち、株立ちの独立木は61本で、スギが13本、カシ類11本、サカキ9本、モチノキ6本、ヒノキ5本などとなっています。

それにしても白山神社の樹木が少なくなっているのが気になります。

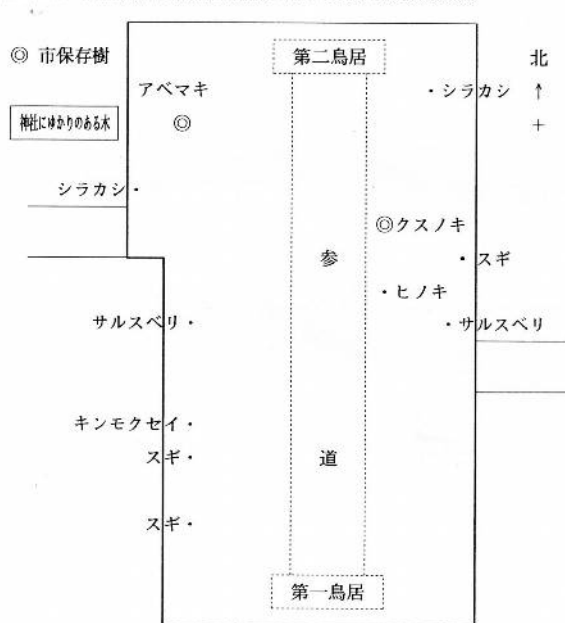
透垣門から本殿裏まで



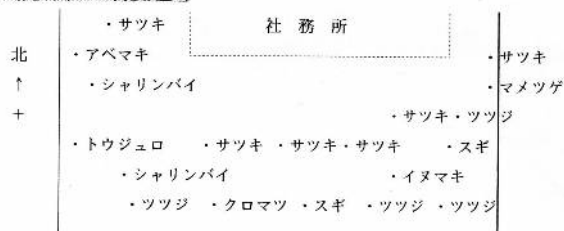
第二鳥居から透垣門まで



第一鳥居から第二鳥居まで



社務所の南庭



第一鳥居から第二鳥居の区域は、平成19年3月に、立木(高木4本)、(雑木17本)を伐採した。(市補償61万4千円)

岡島博氏の『記録 松河戸「白山神社」その現在・過去・未来』から平成10年3月当時

(2) 木々の減少の理由

この間に何があったのでしょうか。

岡島博氏(総代)の『記録 松河戸「白山神社」その現在・過去・未来』は、平成10年3月現在の記録で、その6か月後の台風7号(平成10年9月22日)により白山神社の樹木に大きな被害がありました。

その時の被害の記録は前項(4-(2))に記載していますが、現在の樹木の種類、場所と相違点が多くあることから、その時点で被害を被った木として挙げられた以外にも、その後の後遺症で枯れた木が多くあったことでしょう。若木についてはこの時以降に植え替えられました。

また、平成22年に区画整理で神社境界が確定して、境内の配置が見直され整備されましたが、第一鳥居から第二鳥居までの消滅に伴って、平成19年3月にその区域の立木(高木4本)、(雑木17本)を伐採しています。

さらに、境界周囲の玉垣等の設置に伴い周辺の樹木が伐採されています。

令和に入ってから、拝殿の西側にあったネズミモチ、スギの大木が拝殿の方角に傾いてきたので伐採されています。

6 境内樹木の維持管理

(1) 大木の倒木

白山神社の「鎮守の森」は、先人たちが大切に守ってきました。

最近、台風や豪雨により神社の大木が倒木したという話をよく聞くようになりました。

何百年も神社とともに存在してきた大木が、何故この私たちの時代に倒木するのか。

当然、木にも寿命がありますが、なぜか因果を感じます。

白山神社の周りには家が建ち並び、もし大木が倒れ近隣の家が巻き込まれたら……。

そうすると人の生死に関わるし、賠償問題も起きます。

(2) 木の管理

神社の鎮守の森の木は、神が宿る木として剪定が憚られ、枝は伸び放題となり樹冠は大きくなっていました。

しかし、今は昔と違い、神社の周りには家が立ち並んできました。

神社の木も大きくならないように定期的に剪定する必要があり、朽ちかけた大木は伐採する必要があります。

一番気がかりな木であった市保存樹である巨木「アベマキ」は、倉庫の屋根に覆いかぶさって空に大枝を広げていました。

木の根元には大きな空洞がみられ倒木の危険性が指摘されていました。

この木が倒れると、どちらの方角に倒れても、社殿、社務所、隣の仏法堂などに被害が及ぶことが考えられたことから、協議のうえ令和5年1月末に幹の切り詰めを決行しました。

生命力を信じて幹の切り詰めを行った「アベマキ」は、同年10月現在いっぱいの葉を付けています。

(3) 伐採における問題点

大木の剪定・伐採には大型のクレーン車が必要ですが、神社の周りには十分なスペースがありません。

かつて、白山神社の周りは水田でしたが、今では家が立ち並び、また鳥居をくぐってクレーン車が境内に入ることもできません。

根元から切り倒すのは難しく、近くの建物を傷つけないように伐ろうとすると、櫓を組んで上から少しずつ伐ってクレーンで吊り下ろす必要があります。

ただ大型クレーン車でないと木に近づけられないなど、当然、伐採費用も多額となってきます。

「アベマキ」の幹の切り詰めにあたっては、神社の駐車場にクレーン車を置き、社務所の屋根越しに伐採した木の上部を吊り下げする方法で行いました。



クレーン車(スカイマスター)を使った「アベマキ」の切り下げ作業

(4) 雑草の除草

人手が足りなくて境内に除草剤を蒔く神社も増えてきたといえます。

最近動物には良い除草剤が出てきているとはいえ、植物を枯らすものですので樹木には少なからず影響があり、知らず知らずのうちに木を枯らしてしまう危険性があります。

特に大木は根を大きく張っているので、症状が現れた頃には手遅れということがあります。

最近、神社の神木が枯れた、台風で倒木したとの話を聞くようになってきましたが、調べてみると除草剤の影響で根が腐っていたとのこと。

当然、土の中の微生物が死滅し生循環が断ち切れた場所に大地のパワーはあるはずありません。

春になると、草が生茂り大変ですが、昔から行われている氏子皆での「草むしり」こそが、神聖な境内にとって適しているようです。

(5) 未来永劫 白山神社鎮守の森

白山神社の古木を見てみると、幹の根本部分が朽ちているものや、大きな穴が空いている木が多いのが気になります。

原因はいろいろあると思いますが、今私たちができることは、いつかは朽ちるであろう古木に代わる苗木の植林や、愛情を持った日々の手入れこそが、未来永劫に白山神社の鎮守の森として引き継いでいくことになります。

- ・次回、神社シリーズNo.14では「松河戸の九の宮」をお送りします。
- ・神社シリーズNo.1「春日井市内にある白山神社」、～No.13「白山神社の鎮守の森」については、下記ホームページに記載してあります。

ドメイン名「com」については現在不通になっています。「org」で閲覧ください。

松河戸文化科学探求隊
隊長 長谷川 浩
080-3657-7052
松河戸町の沿革ホームページ
<http://matsukawado.org/>